

## IRカレンダー（2009年10月～2010年9月）

10月  
11月  
12月  
1月  
2月  
3月  
4月

第52期 第2四半期決算発表・決算説明会

第52期 第3四半期決算発表  
31日 第52期 決算日

5月  
6月  
7月  
8月  
9月

第52期 決算発表・決算説明会  
第52回 定時株主総会  
経営報告会

第53期 第1四半期決算発表  
30日 第53期 第2四半期決算日

## 株主メモ

株主名簿管理人  
特別口座の口座管理機関  
同事務取扱場所  
同送付先・連絡先  
事業年度  
基準日  
配当金受領株主確定日  
公告掲載方法

〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社

〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号  
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

毎年4月1日から翌年3月31日  
3月31日  
その他必要がある時は、取締役会の決議をもって予め公告いたします。  
3月31日及び中間配当金の支払を行うときは9月30日  
電子公告により行う。  
やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は日本経済新聞に掲載する。  
URL <http://www.showashinku.co.jp>

**JASDAQ**  
証券コード：6384

# 第52期 第2四半期報告書

平成21年4月1日から  
平成21年9月30日まで



**ULVACGROUP**  
株式会社 昭和真空

本社・相模原工場  
〒229-1124 神奈川県相模原市田名3062-10  
TEL.042-764-0321 FAX.042-764-0329  
URL <http://www.showashinku.co.jp>  
(証券コード：6384)



本社・相模原工場認証取得



株式会社 昭和真空



## 第2四半期連結累計期間の業績についてお聞かせ下さい。

A

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、昨年の秋以降の世界同時不況の影響により急速に悪化した景気は最悪期からは脱しつつありますが、企業収益の回復には至っておらず、設備投資は依然として低迷しており、経済環境は先行き不透明な状況で推移しました。当社グループを取り巻く経営環境を見ると、昨年の夏場以降低迷していた水晶デバイスや電子部品の需要は回復基調にありますが、同業界の設備投資需要は厳しい状況が続いており、当社グループ装置に対する需要も低迷しました。

こうした環境の中、当社グループは地道に受注・販売活動を続けてまいりましたが、受注・売上両面で非常に厳しい状況が続ききました。一方、太陽光発電関連のビジネスは若干の停滞はありましたが、引き続き好調であり、新たな受注獲得に向け、当社グループ装置に対する引き合いにも積極的に対応してまいりました。損益面では、売上の絶対量が少なく固定費をカバーできませんでした。また、電子装置において、大口案件の納入日延期があり、生産が第3四半期以降へずれ込み、操業度が低下したため、利益率が悪化しました。

このような厳しい状況の中で、当社グループは昨年秋より取り組んできた固定費削減策を今期は更に一歩踏み込んで、『緊急固定費削減策』を打ち出し、人件費の圧縮や一時休業などの生産調整により固定費削減を実施するとともに、補助金を活用した雇用の確保にも努めました。

### 経営方針

1. 成長するニッチ市場へのフォーカス
2. 技術力による差別化と独自性発揮
3. 徹底したコストダウンによる価格競争力の向上

### 事業ドメイン

真空技術をキーテクノロジーとした電子・光学部品用薄膜形成分野

代表取締役社長  
小俣 邦正



## 財務ハイライト

(単位：百万円)

回次 (決算年月)	第49期 (平成19年3月期)	第50期 (平成20年3月期)	第51期 (平成21年3月期)	第52期中間 (平成22年3月期)	第52期予想 (平成22年3月期)
売上高	10,426	12,003	9,493	2,131	7,183
経常利益又は経常損失(△)	537	594	266	△579	△539
四半期(当期)純利益又は 四半期(当期)純損失(△)	217	319	130	△876	△837
資本金 (発行済株式数)	2,176 (6,498,700株)	2,177 (6,499,000株)	2,177 (6,499,000株)	2,177 (6,499,000株)	
純資産	7,708	7,703	7,604	6,677	
総資産	13,106	15,023	12,189	12,058	
自己資本比率	58.8%	51.3%	62.4%	55.4%	



## 品目別の動向についてお聞かせ下さい。

A

### 水晶デバイス装置部門

水晶デバイス業界では、携帯電話の出荷台数が回復に向かっており、昨年の夏場以降厳しい状況が続いていた水晶デバイスの生産も、回復基調にありますが、設備投資の段階には至っておらず、当社グループ装置に対する引き合いも出始めてはいるものの、受注には至りませんでした。また、売上が第3四半期以降へずれ込んだものが数件あり、計画を下回る要因となりました。

### 光学装置部門

光学業界では、デジタル一眼レフ市場が好調であり、DVDにおいてはブルーレイ市場が比較的堅調に推移しましたが、全体的には消費が低迷し、各社とも設備投資を控えました。こうした中、当社グループは前期市場投入した新型装置の営業展開を積極的に進めてまいりました。受注面においては、大口契約などもありほぼ計画どおりに推移しましたが、売上においては非常に厳しい状況となりました。

### 電子・その他装置部門

電子部品業界では、昨年の夏場以降厳しい状況が続いておりましたが、当四半期に入り、電子部品の生産も徐々に回復してまいりました。しかし、設備投資需要は厳しく、当社グループ装置に対する需要も厳しい状況が続ききました。一方、太陽光発電関連業界からの当社グループ装置に対する引き合いにも積極的に対応し、新たな受注獲得に向け営業活動を行ってまいりました。また、大口案件の納入日延期があり、生産が第3四半期以降へずれ込んだため、操業度が低下してしまい利益率を悪化させる要因となりました。

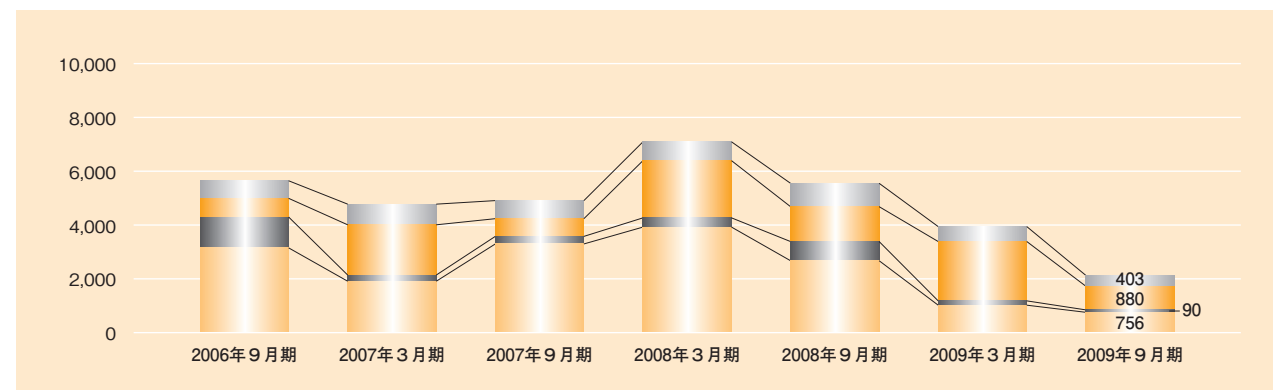
### 部品販売・修理その他

部品販売・修理につきましては、西日本支店や上海子会社を中心に、修理・改造などの引き合いに積極的に対応してまいりましたが、前期好調だった株式会社エフ・イー・シーが製造販売する歯のない歯車「マグトラン」の販売が苦戦し、計画を下回る要因となりました。

## 品目別売上高半期推移

■ 水晶デバイス装置 ■ 光学装置 ■ 電子・その他装置 ■ 部品・修理

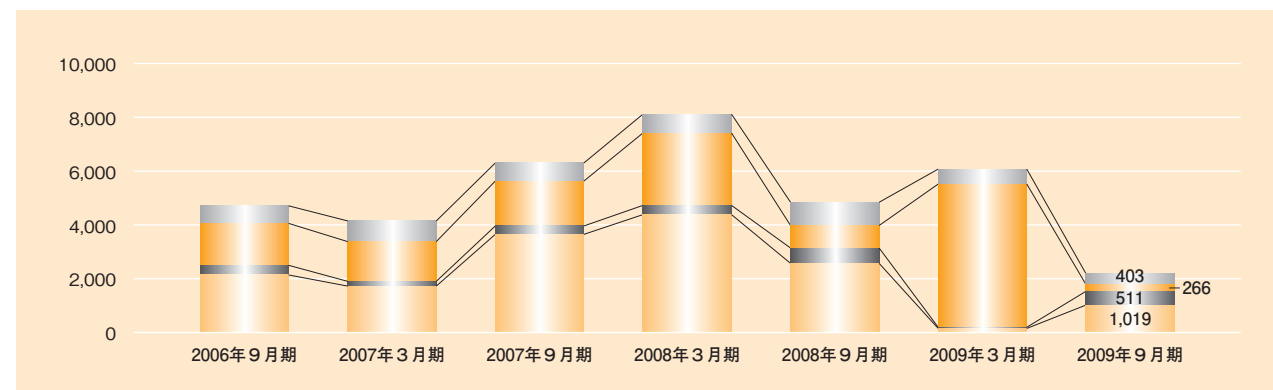
(単位：百万円)



## 品目別受注高半期推移

■ 水晶デバイス装置 ■ 光学装置 ■ 電子・その他装置 ■ 部品・修理

(単位：百万円)



## 当期の見通しについてお聞かせ下さい。



売上に関しては、電子装置において、当期売上を見込んでおりました受注済の大口契約の一部が、納入日延期の要請を受け、来期へ売上がずれ込むことが予想されます。以上の理由により、売上高は前回発表予想より、2,774百万円減少し、7,183百万円を予想しております。

損益につきましては、売上の絶対量が少ないこと、電子装置における大口案件の納入日延期により操業度が低下し、利益率が悪化することなどが見込まれ、全社的なコストダウン活動ではカバーしきれないものと予想され、営業損失486百万円、経常損失は539百万円となる見込みであります。また、当社は税効果会計に係る会計基準に従って繰延税金資産を計上しておりますが、当第2四半期までの実績と今後の業績推移を鑑み、繰延税金資産の回収可能性につきまして、慎重に検討した結果、繰延税金資産を取崩し、第2四半期連結累計期間で法人税等調整額に291百万円を計上いたしました。その結果、当期純損失につきましては、837百万円となる見込みであります。

## ■歯のない歯車 –真空と「マグトラン®」–

液晶テレビ、携帯電話、パソコン・・・日々性能が向上し、今や私たちの生活に欠かすことの出来なくなったこれらの製品は、半導体を始め多くのハイテク電子部品が組み込まれています。

そして、その製造過程は非常に高いクリーン度が要求されているのです。

科学技術が進み人類は宇宙を目指します。宇宙空間に「工場」が出来るのも夢ではありません。

では、なぜ宇宙に工場を造るのでしょうか。それは宇宙空間が極めて「クリーン」な、真空の世界だからなのです。そして、地球上の環境で「クリーンな真空環境を作る」、これが「真空装置」といわれるものです。

高度で微細化される電子部品を製造するには、空気中に浮遊する「ゴミや異物」は大敵です。特に「高真空内」では、それらのものが「ガス化」し製造に決定的なダメージを与えてしまいます。普通の環境では何も起こらない「発塵」や「発ガス」が、真空内ではクリーン化を損なうとんでもない悪玉になってしまうのです。

そして「製造の工程」・・・それは「物を動かすこと」に、他なりません。

高度なハイテク電子部品の製造では「物を動かす時に発生する微細なゴミや異物をなくすことが永遠のテーマ」であると言っても過言ではないのです。

非接触の伝達機構「マグトラン®」（歯のない歯車）は、その必要性から生まれたものです。

真空内での色々な移動機構の製作を専門とする当社の子会社である株式会社エフ・イー・シーが、長い間苦しんだ、「発塵対策」という問題を解決する方法として開発されました。

既に株式会社エフ・イー・シーでは古くからマグネットを使った製品を作っていました。

「マグネットの使い方を工夫して、物を移動することに使えないだろうか」というのが始まりでした。この取り組みは10年以上前から始まり、やっと世に出すことの出来るものが出来たのが2000年です。お蔭さまでその年の「通産大臣賞」を受賞する事が出来ました。

真空内での「発塵と発ガス」を少なくするために開発されたこの製品は、やがて同じ目的で「クリーンルーム」などの大気中での使用に発展します。

そして、今や「低発塵の伝達機構」としてハイテク業界に定着しつつあります。私たちはこの機構の特許などで縛ることなく、医療機器、医薬品・化粧品の製造工程など、「クリーンな環

境で製品づくりをしたい」といわれる産業に広く定着するように、日々技術の向上と応用製品の開発に取り組んでいます。

株式会社エフ・イー・シー概要

1. 商号 株式会社エフ・イー・シー
2. 代表者 代表取締役 阿部 貴
3. 所在地 埼玉県狭山市柏原229-3
4. 資本金 12,000千円

マグトラン®：特殊マグネットによる、非接触駆動伝達機構です。機械的な接触がないため、摩擦抵抗とそれに伴う発塵・振動がなく効率的且つ微騒音の搬送環境を造ることが可能となります。静粛性を生かした他の用途（医療など）への浸透も期待されています。

### ベルトやギア駆動から非接触駆動へ（マグトラン®の例）



ギヤ駆動



ベルト駆動



マグトラン®（歯のない歯車）

## 連結財務諸表の概況

### 四半期連結貸借対照表（要旨）

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期連結会計期間末 平成21年9月30日現在	前連結会計年度末 平成21年3月31日現在
資産の部		
流動資産	6,745	6,567
固定資産	5,312	5,621
有形固定資産	5,012	5,120
無形固定資産	152	171
投資その他の資産	148	329
資産合計	12,058	12,189
負債の部		
流動負債	2,400	2,932
固定負債	2,980	1,651
負債合計	5,380	4,584
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,177	2,177
資本剰余金	2,753	2,753
利益剰余金	2,028	2,978
自己株式	△278	△278
株主資本合計	6,681	7,631
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	8	7
為替換算調整勘定	△12	△34
評価・換算差額等合計	△3	△26
純資産合計	6,677	7,604
負債及び純資産合計	12,058	12,189

## 連結財務諸表の概況

### 四半期連結損益計算書（要旨）

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	前第2四半期連結累計期間 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	前連結会計年度 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日
売上高	2,131	5,551	9,493
売上原価	1,941	4,344	7,463
売上総利益	190	1,207	2,029
販売費及び一般管理費	739	918	1,767
営業利益又は営業損失（△）	△549	289	262
営業外収益	26	22	71
営業外費用	56	40	67
経常利益又は経常損失（△）	△579	270	266
特別利益	—	5	4
特別損失	0	62	66
税金等調整前四半期（当期）純利益	△579	213	204
法人税、住民税及び事業税	4	39	41
法人税等調整額	291	40	31
四半期（当期）純利益又は四半期（当期）純損失（△）	△876	133	130

### 四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

(単位：百万円)

科 目	当第2四半期連結累計期間 自平成21年4月1日 至平成21年9月30日	前第2四半期連結累計期間 自平成20年4月1日 至平成20年9月30日	前連結会計年度 自平成20年4月1日 至平成21年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,406	△759	△1,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	17	△5	△130
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,339	△166	△12
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	△1	△22
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△42	△933	△1,169
現金及び現金同等物の期首残高	1,161	2,330	2,330
現金及び現金同等物の四半期末（期末）残高	1,119	1,397	1,161

## 会社概要 (平成21年9月30日現在)

### ■会社概要

商号 株式会社昭和真空  
 設立 1958年(昭和33年)  
 資本金 2,177,105,200円  
 従業員数 200名  
 営業種目 水晶デバイス用、光学薄膜用、電子デバイス用などの総合的な真空関連装置並びに真空機器等  
 真空蒸着装置、スパッタリング装置、イオンエッチング装置、イオンプレーティング装置、ドライエッチング・アッシング装置、真空冶金(溶解、熱処理、焼結、脱ガス)装置、光学薄膜用モニター(多色式、単色式)、IAD冷陰極イオンソース、液晶注入装置、有機EL用蒸着装置、その他

取引銀行 三菱東京UFJ銀行  
 横浜銀行  
 みずほ銀行  
 三井住友銀行  
 八千代銀行  
 山梨中央銀行  
 城南信用金庫

### ■事業所

本社・相模原工場 〒229-1124 神奈川県相模原市田名3062番10号  
 TEL.042-764-0321 FAX.042-764-0329

営業所・大野台第二工場 〒229-0011 神奈川県相模原市大野台五丁目16番41号  
 TEL.042-754-1331 FAX.042-758-1052

大野台パーツセンター 〒229-0011 神奈川県相模原市大野台二丁目27番2号  
 TEL.042-768-8952 FAX.042-768-8957

### ■グループ会社

昭和真空機械(上海)有限公司(中国・上海)  
 昭和真空機械貿易(上海)有限公司(中国・上海)  
 株式会社SPT(神奈川県相模原市)  
 株式会社エフ・イー・シー(埼玉県狭山市)

### ■関連会社

Sansei-Showa Co., Ltd. USA(米国・オハイオ州)

### ■役員

代表取締役社長 小俣 邦正  
 執行役員 坂地 藤五郎  
 専務取締役 執行役員 小泉 保雄  
 取締役 執行役員 村岡 眞史  
 取締役 執行役員 市川 正  
 取締役 執行役員 高橋 理  
 取締役 小田木 秀幸  
 常任監査役 藤原 陸男  
 監査役 千葉 睿一  
 監査役 常見 佳弘  
 執行役員 久島 博美  
 執行役員 田中 彰一

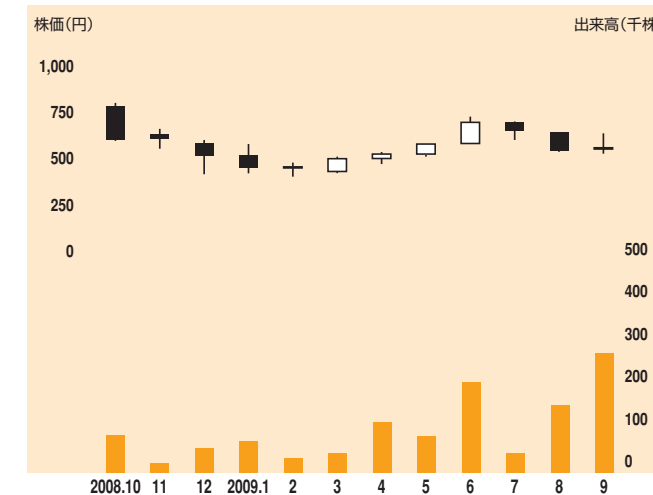
## 株式の状況 (平成21年9月30日現在)

- 発行可能株式総数 13,800,000株
- 発行済株式の総数 6,499,000株
- 株主数 2,758名
- 大株主

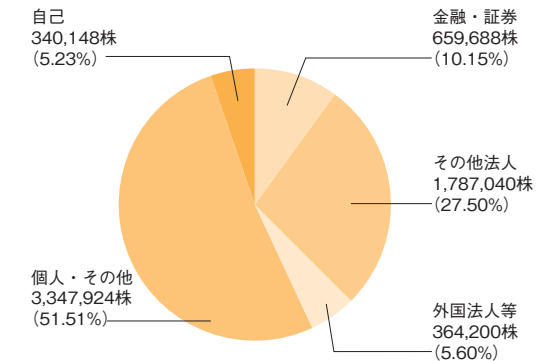
株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
株式会社アルバック	1,329,500株	21.58%
小俣 邦正	567,600	9.21
有限会社小俣興産	391,640	6.35
株式会社昭和真空	340,148	—
昭和真空従業員持株会	278,652	4.52
株式会社三菱東京UFJ銀行	240,000	3.89
ノーザントラストカンパニーエイブイエフシーリノーザントラストガンジーノントリーティークライアント	150,000	2.43
日本生命保険相互会社	144,000	2.33
小俣 佳子	120,000	1.94
小俣 輝明	120,000	1.94
小俣 みつこ	120,000	1.94

(注) 持株比率は自己株式(340,148株)を控除して計算しております。

### ●株価及び売買高の月次推移



### ●株式の所有者別状況(株式数)



### ●株式の所有数別状況

